

氏名	曾根 保子 SONE Yasuko
所属 職名	生活環境教育研究センター 助教
学位	学術博士/Ph.D. in Nutrition (2007年 お茶の水女子大学)
専門分野	分子栄養学/基礎予防栄養学 Molecular Nutrition/Preventive Nutrition
URL	
E-mail	

研究者キーワード / Keywords

抗酸化ビタミン
活性酸素
生活習慣病
遺伝子発現解析
脂質代謝

antioxidant vitamin
reactive oxygen species
metabolic syndrome
analysis of gene expression
lipid metabolism

主要業績

Antioxidant/anti-inflammatory activities and total phenolic content of extracts obtained from plants grown in Vietnam. Yasuko SONE, Joon-Kwan MOON, Truong Tuyet MAI, Nghiem Nguyet THU, Eri ASANO, Keiko YAMAGUCHI, Yuzuru OTSUKA, Takayuki SHIBAMOTO. Journal of the Science of Food and Agriculture. 2011. In press.

Effect of oxygen concentration on the expression of antioxidant gene in HepG2. Yasuko SONE, Yasuko KUDO, Rieko OBA, Yuzuru OTSUKA. Biosci.Biotechnol.Biochem. Jun 7; 74(6):1267-70, 2010.

Association with Lifestyle Factor, Polymorphisms in Adiponectin, Perilipin and Hormone Sensitive Lipase, and Clinical Markers in Japanese Male. Yasuko SONE, Keiko YAMAGUCHI, Aya FUJIWARA, Toshimi KIDO, Kazuo KAWAHARA, Asako ISHIWAKI, Kazuo KONDO, Yutaka MORITA, Noriko TOMINAGA, Yuzuru OTSUKA. JNSV. Apr; 56(2):123-31, 2010.

「RNAi法による酸化ストレス応答遺伝子ノックダウンによる細胞増殖の影響」○曾根保子、宮倉 玲子、大塚 譲、『日本家政学会大会』、No. 62、広島、2010年5月

「ヒト膵臓癌由来細胞株（MIA paca2）からインスリン分泌細胞への分化誘導法の検討」、○高橋美鶴、木村悠季、Mai Tuyet Truong、山口敬子、曾根保子、大塚 譲『日本分子生物学会』No.33、神戸、2010年12月

研究内容 / Research Pursuits

主に疾患予防の観点から、動物、細胞、タンパク質・遺伝子レベルで、栄養素による体内調節のメカニズムを科学的に明らかにすることを研究課題とし、疾患予防と健康増進を図るために有効な科学的根拠の蓄積を目指す。【これまでの主な研究テーマ】1)アスコルビン酸の体内動態に関する研究 2)免疫細胞分化制御に対する酸化ストレスの影響 3)脂質代謝関連遺伝子多型と臨床指標との関連性 4)生体内酸化ストレス防御機構の解明 5)食用植物の生理活性の特定および分離精製

My study is to investigate the effect of nutrients on mechanism in vivo regulation for prevention of disease, at the level of an individual, cell and molecule. My main research interests are as follows. 1) Effect of vitamin C intake on the disposition in

■ 教育内容 / Educational Pursuits

現在、「食」に関連して必要とされ「食糧」へ、栄養学的側面のみにとどまらず、生活習慣、文化、安全性、その他の環境問題などとかかわり非常に多様化してきている。一部では、検証されないまま昔から一般に言われてきたことや科学的根拠のない情報が利用されている場面も散見される。このような状況のなかで国民の健康維持・増進を目指し、「食」に関して正しい情報を発信することは重要な課題のひとつである。そこで、科学的根拠を体系的に構築するとともに新たな学問体系をつくり、情報を有効に発信・伝達できる高度な専門化を育成することが必要であると考え、受身の立場での知識習得を促すだけでなく、自ら主体的に研究課題を探索し、課題解決に取り組む場を提供するよう心がけ、授業・研究補助を実施している。【担当授業】「食物栄養学科」 ■ 食物栄養学基礎演習「SHOKUIKUプログラム」 ■ 食のサイエンス ■ 食育研究コロキウム ■ 食をめぐる環境論

It is necessary that we deal with the issues about diets to maintain our health. It covers a lot of ground, ex. nutrient, culture, safeness, life-style and food environment. A new revelation about these issues results in the prevention for various disorder

■ 研究計画

各種疾患発症リスクの低減には、生活習慣の中でも、とりわけ摂取栄養素（食物）が大きな要因の一つである。これまでも様々な食物が疾患の発症や老化の予防につながるという報告が数多くなされているが、食物由来の栄養素による疾患予防効果は、集団や民族間において異なる、或いは、基盤となる科学的根拠に差があるなど、生活習慣病をはじめとする各種疾患の発症リスクの低減効果や老化抑制効果についての評価にバラツキが大きい。これに対し、栄養素による各種疾患予防効果を正確に評価するためには、遺伝型に即した食習慣の改善が期待されるほか、その改善効果の量的・質的程度をより具体的に評価するための指針を明らかにする必要がある。これらの基礎知見となる科学的根拠の蓄積を抗酸化ビタミン、脂肪酸などをターゲットとして行う。下記のテーマについて重点的に取り組む。1) 脂質代謝関連遺伝子の一遺伝子多型と脂質代謝プロファイルとの関連解析 2) ビタミンCの体内輸送機構の解明 3) 抗酸化ビタミンの生理機能の解明 ※ 共同研究の可能性 有

■ メッセージ

主に疾患予防の観点から、栄養素による体内調節のメカニズムを明らかにすることを研究課題としています。そして、疾患予防と健康増進を図るためにより有効な栄養摂取の仕方を科学的に明らかにしていきたいと思っています。栄養学分野の科学的根拠を蓄積し、それに基づいた情報を正しく発信できる専門家がお茶の水女子大学からたくさん巣立ってくれるようお願いしています。